

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- 1 兵庫県音楽療法士認定証
交付式・記念講演会
- 2~3 平成26年度の研究成果
について
- 4~5 平成27年度事業計画、平
成27年度の研究テーマ
- 6~8 人と防災未来センター
MIRAI

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **51** 平成27年
(2015) 5月

3月10日午後、平成26年度兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会が、兵庫県こころのケアセンターで開催されました。

新規認定者17名に兵庫県から認定証が交付されるとともに、日本音楽療法学会常任理事の加藤美知子氏の記念講演会、新規認定者の実践活動発表が行われ、音楽療法を実践中の病院や学校、高齢者・障害者福祉施設などの職員、音楽療法士、音楽療法団体関係者・研究者など約130人が参加しました。



井戸知事から認定証を交付される平成26年度認定者代表

式典では、井戸敏三兵庫県知事から新規認定者に「兵庫県音楽療法士認定証」が交付されました。井戸知事は、現場での音楽療法士としての活躍を期待するとともに、『音に乗せ 曲を楽しみ 歌唱う癒しの療法 支え続ける士たち』という歌を詠まれ、音楽療法士としての門出を祝われ、激励の言葉を贈られました。また、松本隆弘兵庫県議会副議長から「本日改めて音楽療法士の皆さんの活動の大切さを感じ、今後とも頑張っていたきたいと思う。議会としても、皆さまのお役に立てるように応援していきたい」と祝辞が述べられました。

続いて、兵庫県音楽療法士認定審査会を代表して司馬良一委員長より「申請者22名について、知識・技術・適性の観点から厳正な審査を行い、17名を合格と判定した。これまで学んだことを生かし、対

平成
26年度

兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会 「音楽療法士の成長実践と教育を通して」を開催

象者の方の尊厳を守り、倫理性をわきまえて、喜んでいただける音楽療法の提供を願っている。これからも研さんを積んで、さらに上を目指してほしい」との審査講評を述べられました。

次に「音楽療法士の成長 実践と教育を通して」と題した記念講演会での講師の加藤美知子氏による実践の具体例を交えたお話は、大変興味深く、新規認定者をはじめ、参加者にとって大変意義深いものとなりました。

加藤氏は、いろいろな楽器を使用し、出席者も参加した実践的な講演をされ、「音楽療法士の仕事は、すごく奥深く、やってもやってもきりがなく、すごくエキサイティングな仕事である。続けていけば、多くの挫折もあるし、楽しいこともいろいろあると思うが、仲間がいるということは大切なことである。兵庫県の方たちは、行政のバックアップもあるし、困ったときには相談できる諸先輩や仲間がいることを大事にしてほしい」と語られました。



講師の加藤美知子氏

兵庫県音楽療法士

音楽療法とは、「音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」をいいます。

兵庫県では平成11年度に音楽療法士養成事業を開始し、13年度から県独自の「兵庫県音楽療法士」の認定を行っており、27年3月までに332名を認定。養成講座は、当機構こころのケアセンターが実施しています。

平成26年度の研究成果について

● 研究テーマと担当研究員

「災害時の広域連携支援の役割の考察」 (平成24・25・26・27年度研究)

担当：鶴谷 将彦 主任研究員

大地震など、大規模自然災害が発生した際には復旧・復興政策を迅速に実施することが求められる。日本では、多くの自然災害を経験しており、行政が復旧・復興の経験を積んできているが、こうした過去の経験を生かし将来的な大震災に備えるためには、行政としてどのような制度や組織が復旧・復興・防災を担うのにふさわしいか考察する必要がある。

このため、東日本大震災時の関西広域連合の取り組みに注目し、災害時の支援の担い手と受け手としての問題点や改善点について検討するとともに、日本と異なる制度・組織を有するアメリカや台湾の防災行政の比較研究を実施した。



「大震災復興過程の比較研究～関東、阪神・淡路、東日本の三大地震を中心に～」 (平成24・25・26・27年度研究)

担当：金 恩貞 主任研究員

次なる大震災に対していかに備えるべきかという問題意識に立ち、①災害における政治過程と政治リーダーシップ、②復旧・復興における政府の対応の実態、③震災をめぐる社会的認識及び災害の教訓、という3つの論点に焦点を当てて、関東大震災、阪神・淡路大震災、東日本大震災の3つの震災における復旧・復興過程について政治学的視点から比較検討を行った。

特に、復興過程における女性参加のプロセスや女性の役割の変化、被災者に対する義援金等の現金給付の需要と対応等について検討した。また、東京(災害復興を考える～関東大震災と首都直下地震)及び神戸(巨大震災の復興と教訓～次なる大災害に備えて)でシンポジウムを開催し、研究成果の情報発信を行った。



「災害時の生活復興に関する研究～生活復興のための12講～」 (平成26年度研究)

担当：荒木 裕子 嘱託研究員

繰り返される災害からの教訓を踏まえた生活復興を推進していくためには、共通する課題や取り組むべき事項を抽出し、減災のサイクルの中に位置づけることが求められる。

このため、平成25年度に実施した「東日本大震災生活復興プロジェクト」(復興庁受託事業)のフォローアップを行い、大規模災害発生時の生活復興のあるべき姿や復興課題解決に向けて共通する要素・プロセスを明らかにし、行政、住民、支援者等各セクターが事前に備えるべき事項について検討し、政策提言を行った。



「人口減少下の多自然地域の魅力づくりの研究～シニア世代を活用した新たなビジネスの展開～」 (平成26・27年度研究)

担当：杉山 武志 主任研究員

人口減少や高齢化、基幹産業である農林水産業の衰退が進む一方で豊かな資源を持つ多自然地域を対象に、シニアとシニアに関わる若者や支援者の関係を視野に、自律的な地域社会と経済を維持する新たなビジネスモデルが求められる。

このため、集落生活の維持に貢献するビジネスの仕組みづくりに向けて、「コミュニティビジネス」、「移住者や民間企業などのソーシャルビジネス」の両面から研究を積み重ねた。その上で、中間支援組織や地方自治体の支援等を通じて双方のビジネス形態を結び付け、相乗効果を高める方策の検討を行った。



「リスボン地震とその文明史的意義の考察」 (平成25・26年度研究)

担当：計盛 哲夫 主任研究員

巨大災害は一国の存立を危うくし、文明をも衰退させる力を秘めており、1755年に発災したリスボン地震もその一例とされている。首都直下と南海トラフの両巨大地震が発生すれば、その被害はそのまま日本の“国難”となるおそれがある。



このため、リスボン地震がもたらした被害規模とその原因を改めて検証し、あわせてポルトガルのみならずヨーロッパ社会にもたらした影響を今日的視野に立って再検証し、首都直下と南海トラフの両巨大地震を日本の国難としないための防災・減災のシナリオづくりへの活用について検討し、政策提言を行った。

「自然災害後の土地利用規制における現状と課題～安全と地域持続性からの考察～」 (平成26年度研究)

担当：荒木 裕子 嘱託研究員

東日本大震災の被災地では災害危険区域の条例制定と区域指定が行われているが、自治体によって区域指定の基準や規制内容が異なっていることを踏まえ、指定基準・指定状況、指定プロセスと地域性を整理し、安全性と地域の持続性の視点から自然災害後の土地利用の現状と課題を明らかにした。



その上で、再来性のある自然災害後の土地利用規制を含む復興の進め方と事前の備えについて検討し、政策提言を行った。

平成25年度ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究成果報告会を開催

ひょうご震災記念21世紀研究機構は、兵庫県のシンクタンクとして、阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえて再認識された「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」を進めるための調査研究を進め、政策提言を行っています。

平成25年度の研究成果(3テーマ)について各テーマの研究責任者による発表および行政職員、県民等と意見交換を行う報告会を下記のとおり開催しました。

個人、企業、地域団体、NPO、行政など多数の参加を得て、盛況のうちに終えることができました。

【報告会内容】

日時：平成26年6月13日(金)9:30～12:00

場所：兵庫県民会館 パルテホール

参加者：約160名

報告：

- (1) ローカルガバナンスが創る共生社会
講師：松原一郎(関西大学社会学部教授)
- (2) 国際防災協力体制構築の検討～アジアを中心に～
講師：片山裕(京都ノートルダム女子大学副学長)
- (3) 過疎と都市への集中の両極化が進む中でのコミュニティづくり
講師：立木茂雄(同志社大学社会学部教授)



平成27年度事業計画

1 基本方針

東日本大震災の発生とともに南海トラフ地震、首都直下地震など超巨大災害の発災が危惧され、一方で人口の急減や超高齢化に直面し、各地域がそれぞれの特色を生かした自律的、持続的な社会の創生に向けた取り組みを進めている。そこで、「安心安全なまちづくり」と「共生社会の実現」を基本課題に、質の高い政策提言を行うとともに、人と防災未来センターやこころのケアセンターにおける震災の経験と教訓を生かしたさまざまな活動の展開や、国内外の研究機関との知的交流・人材育成などの諸事業の充実・強化に努めていく。

併せて、当機構は来年4月に設立から満10年を迎えることから、阪神・淡路大震災の被災地に誕生したシンクタンクとして、上記基本課題の下、社会貢献活動のさらなる展開を目指し、兵庫県の第3次行革プランも踏まえつつ、今後のあり方を検討する。

2 主な取り組み

(1) 調査研究事業

機構内をはじめ、HAT神戸に集積する研究機関や兵庫県立大学との連携を深めながら、研究領域を「震災の教訓・災害復興」と「共生社会の実現」の2分野に重点化し、阪神・淡路大震災や東日本大震災から得られた教訓を生かした広域連携のあり方、大災害からの復興過程の比較検証について検討する。さらに、多自然地域における新たなビジネスの展開、人口減少、少子高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方、若者にとって魅力ある多自然地域拠点都市の形成方策に関する研究など、21世紀の成熟社会における喫緊の課題についての実践的な政策研究に取り組む。

(2) 学術交流事業

21世紀文明シンポジウムの東北での開催や自治体

災害対策全国会議の高知県での開催などを通じ、大規模災害に備えた教訓の共有化と全国発信に努めるとともに、情報誌の発行、ITの活用など多様な媒体により、機構の活動や研究成果に係るより一層効果的な情報発信に取り組む。

また、「兵庫」にゆかりのある多彩な知的資源の蓄積を活用した講座を引き続き開催するなど、知的交流基盤の充実に取り組む。

(3) 人と防災未来センターの運営

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、そこから学んだ教訓を未来に生かすことを通じて、防災に関する知識および技術の普及、防災政策の形成支援を行い、地震等の被害の軽減を図るため、分かりやすく伝える展示事業、実践的な防災研究、災害対策専門研修の充実などに取り組む。

(4) こころのケアセンターの運営

トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する研究や研修、相談、診療、被災地支援活動などを実施するとともに、いのちの尊厳と生きる喜びを高める「ヒューマンケア」の理念に基づく人材育成を行う。

さらに、引き続き兵庫県版災害派遣精神医療チーム(ひょうごDPAT)の体制整備に取り組む。

(5) 評価・検討事業

公益財団法人として業務の質的向上、公益性、透明性の確保に取り組むほか、そのメリットを生かした外部資金の導入や管理運営に係る経費等の削減に努めるとともに、引き続き外部評価委員会等の意見も踏まえつつ、業務・組織の見直しを行う。

また、機構のこれまでの取り組みの評価・検証を行い、今後の展開方策を検討するため、外部有識者や兵庫県の参画を得た委員会を設置する。

平成27年度の研究テーマ

ひょうご震災記念21世紀研究機構では、研究調査本部と人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成27年度は次の内容の研究に取り組めます。

1 研究調査本部

- ・災害時の広域連携支援の役割の考察
(政策コーディネーター 大西裕)
- ・大震災復興過程の比較研究-関東、阪神淡路、東日本の三大震災を中心に
(政策コーディネーター 御厨貴)
- ・人口減少下の多自然地域の魅力づくり～シニア世代を活用した新たなビジネスの展開～
(政策コーディネーター 三宅康成)
- ・若者にとって魅力ある多自然地域拠点都市の形成方策に関する研究
(上級研究員 平田富士男)
- ・人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方について～地域におけるクオリティ・オブ・ライフの実現に向けて～
(政策コーディネーター 阿部茂行)

2 人と防災未来センター

(重点研究領域)

- ・災害初動時における人的・社会的対応の最適化
- ・広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- ・地域社会の復旧・復興戦略の構築

3 こころのケアセンター

- ・DPAT研修カリキュラムのあり方についての研究
- ・子どもの心的外傷性悲嘆に関する効果的な啓発ツールについての研究
- ・労働者の職場ストレスと精神健康の関連
-ハラスメント行為が被害者および職場環境に与える影響の検討-
- ・阪神・淡路大震災が被災者のこころの健康にもたらした長期的な影響に関する研究
- ・東日本大震災の復興期の支援に関する研究
- ・子どものトラウマの標準的な評価方法についての研究
- ・人命救助にかかる災害救援組織のハラスメントに関する調査研究

兵庫県立美術館

県美プレミアム IN MY ROOM / ON THE ROAD —私の部屋、あるいは路上にて—

芸術の近代性を語るのに不可欠な「IN MY ROOM (私の部屋で)」と「ON THE ROAD (路上にて)」の2つをキーワードに、肩肘を張らないアプローチで同館の収蔵品から選定した作品を展示します。

- 会期=7月5日(日)まで
- 観覧料=一般510(410)円、大学生410(330)円、高校生260(210)円、65歳以上255(205)円、中学生以下無料
- ※障がいのある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)
- ※()内は20人以上の団体割引料金



篠原有司男(モーターサイクル・マ) 1971年



數内佐斗司(犬モ歩ケバ) 1989年

舟越 桂 私の中的スフィンクス展

舟越桂(1951年盛岡市生まれ)は遠くを眺めるような人物彫刻で高い評価を受けている現代彫刻家です。彫刻約30点、素描数十点からなる同展では、初期から現在までの制作活動を振り返りつつ、特に近年作家が力を入れている半身裸体像や異形の姿をまとめて紹介します。

- 会期=6月27日(土)~8月30日(日)
- ※7月20日は開館し、21日は休館します
- 観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料
- ※障がいのある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)
- ※()内は前売料金および20人以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売り販売なし)



舟越桂(荒れ野で見る夢)
2013年 個人蔵(台湾)
Courtesy of Nishimura
Gallery
©Funakoshi Katsura



舟越桂(消えない水滴)
1986年 兵庫県立美術館蔵
©Funakoshi Katsura

- ◎休館日=月曜(7月20日は開館し、21日は休館します)
- ◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

JICA関西国際協力連続セミナー 「共に考えよう世界のためにできること」

国際協力を行うのは政府組織だけでなく、NGO・NPO、自治体、民間企業などさまざまな団体が世界中で活動しています。それぞれの団体がどのような考えやアプローチで特色ある活動を行っているのか、市民による国際協力への参加について考える機会を提供します。

- 日時=6月8日(月)から7月6日(月)までの月曜日 18時30分から20時まで
- 場所=JICA関西
- 参加費=無料 ※事前申し込み必要

食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理もご用意しています!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は4月のカリブ海プレート

- メニューの詳細と写真については、
こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>
- 営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
- ※各終了30分前ラストオーダー
- ※年中無休(年末年始を除く)

◎申し込み・問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課
TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします

日本赤十字社では、5月を「赤十字運動月間」とし、赤十字活動への参加と活動資金へのご協力を広く呼び掛けています。皆さまからお寄せいただいた資金は、災害への備えをはじめ、いのちと健康を守る活動に生かされています。

阪神・淡路大震災から20年。日本赤十字社では、震災の経験と教訓をふまえ、災害に備える、経験と教訓を伝える、そして防災・減災に生かす活動に取り組んでいます。

阪神・淡路大震災では発災直後からいち早く被災者の救護を開始。さらには救援物資の配付や義援金の募集など、多くのボランティアと力を合わせ、未曾有の災害に向き合いました。その経験は、東日本大震災などその後の災害に生かされています。

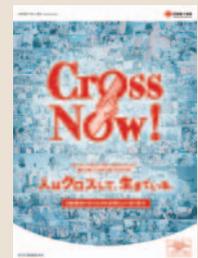
また、警察施設などへの救急箱やAED(自動体外式除細動器)の設置、救急法などの講習会の開催を通じ、地域の安全・安心のための活動にも取り組んでいます。

運動月間中は、皆さまの地域の赤十字奉仕団や自治会、婦人会などを通じて、活動資金へのご協力をお願いします。

- 郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます
- 口座記号番号 01110-0-1136
- 口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部
- ※窓口で取り扱いは、振込手数料は無料です

◎お問い合わせ

TEL 078-241-8921



あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つながり。
それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

新任研究員紹介

研究員 荒木 裕子

2015年4月より人と防災未来センター研究員として着任しました荒木裕子です。大学卒業後は主に建築設計の仕事を行っていましたが、2010年から神戸大学大学院で地域防災の研究をしており、その途上で東日本大震災が発生しました。ご縁があり2011年は宮城県気仙沼市で緊急雇用制度による仮設住宅等コミュニティづくり組織の立ち上げ支援業務を行ってまいりました。当地では支援しているのか、私が支援されているのか分からないほど、大変お世話になり、また復興とは何なのか多くを学ばせていただきました。神戸に戻ってからは大学院での研究に加え、ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部にて、生活復興研究、並びに災害危険区域制度を中心とする土地利用の研究を行ってまいりました。私は特に災害復興期における安全と生活・地域再建の両立を課題として研究しております。復興期に限らず平時から、災害が起きると暮らしがどう変わるのか考えながら取り組むことが重要だと考えております。安全に暮らすために自然災害とどう向き合っていくのか、地域の実情の理解に努めながら、研究を進めたいと考えております。どうぞ皆さまからのご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。



研究調査員 山本 敦弘

初めまして。岐阜県から派遣されて参りました山本敦弘です。4月から研究調査員として防災に関する研究に携わることになりました。

岐阜県からの派遣は、昨年度に引き続き2人目となります。昨今、全国で大きな自然災害が相次いでいるところですが、岐阜県でも毎年のように災害が起きています。昨年度だけでも、戦後最悪の火山災害となった御嶽山の噴火災害や飛騨地方を中心とした8月豪雨災害などがありました。また、岐阜県内の活断層は全国でも比較的多いとされ、今後30年以内に70%の確率で起こるとされている南海トラフ地震では、岐阜県内を最大で震度6弱の揺れが襲うことが想定されています。

行政の最大の目的は住民の命や財産を守ることであり、災害はそれらを脅かす強大な敵であり、一番の脅威です。安全・安心な暮らしの継続のために行政としてどのような対策が可能なのか、また災害時には被害の軽減に向けて素早く対応ができる体制をどのように構築するかなど、まだまだ考えるべきことは多く残されています。1年という派遣期間ですが、当センターの他の研究員の方の知見も吸収しながら、岐阜県のみならず、行政というフィールドで日々奮闘されている方々に少しでもフィードバックできるようにしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



研究員 坪井 壱太郎

本年4月に着任いたしました坪井壱太郎です。メジャーリーガーのイチロー選手と同じ愛知県名古屋市近郊の町で生まれ育った自分にとって、それまで快適な空間が当たり前だった近隣の河川(庄内川・新川)が氾濫した2000年の東海豪雨水害により、自宅が浸水したことが都市防災の研究に取り組む契機になりました。大学院修了後には、大学付属の研究所や政府系シンクタンクで産業公害や企業防災に関する調査業務等に従事してきました。そこで強く感じ、留意してきたことは「Specialist」(特化した知識・技術をもつ専門家)と「Generalist」(広範な知識・技術を持つ専門家)の双方の能力を強化することの重要性です。



自身の調査では「歩く・みる・考える」ことを信条とし、「地図とデータで考え議論する」都市地理学を基盤としています。また、継続して学校や市民、行政、学校を対象とした簡便なソフトと操作による地理情報システム(GIS)を用いた地図作成による地域教育、防災教育、復興人材育成活動を通して、常に問題点の発見と被害の軽減、解決に資する議論の提示を心掛けています。

本センターでは、地震災害と洪水災害の両側面から、地域の社会・経済・環境の構造を踏まえながら、特に復興過程における人の不満や要望の整理と分析を通じて、「次の災害」への対応方策のあり方に関する研究に従事していきます。着任に際し、これは「勤務」ではなく「任務」であることを強く自認し、職務に精励努力していきます。何とぞご指導くださいますようお願いを申し上げます。

研究員 石原 凌河

ニュースレターをご覧の皆さま、こんにちは。4月から人と防災未来センター研究員に着任した石原凌河と申します。実のところ2012年4月から1月末までは当センターの震災資料専門員として在籍していました。再び神戸の地で皆さまと共に研究や実践を行える機会をいただけたことを大変うれしく思っています。



私の専門分野は都市・地域再生やまちづくりですが、当センターの資料室に在籍していたこともあって、災害の記憶継承に関する研究や、災害伝承などのローカル・ナレッジを活用した防災まちづくりに関する研究を中心に取り組んできました。

私が大学院在籍時に東日本大震災が発生し、研究活動の関係で、たまたま徳島県阿南市にいました。震災時には大津波警報が発令され、住民の方々と共に高台へ避難し、不安な夜を過ごしました。幸いなことに、私自身は被害を受けることはなかったのですが、徳島から見た東日本大震災の様相は今も忘れることができませんし、この経験がなければ私が研究者を目指すことはなかったでしょう。この時の経験から、徳島県阿南市とは現在も防災まちづくりや防災教育に関する研究や実践を継続的に取り組んでいます。ささいな経験ではありますが、こうした出会いを通して考えたことを実践的にも理論的にも意義のある研究に発展したく、また、研究者だけでなく防災を専門とする行政職員の皆さまと連携しながら広い視野を持って実践的な防災研究に取り組みたいと考えて、当センターの研究員を志し、今に至っています。

人と防災未来センターでは、東日本大震災だけでなく南海トラフ巨大地震を見据えた防災計画手法に関する研究を行っていきたくと考えています。これからさまざまな経験を積み重ねるとともに、諸先輩方からご指導をいただきながら、人と防災未来センターの研究員として胸を張れる一人前の研究者として成長したいと思っています。まだまだ未熟ですが、皆さまからのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

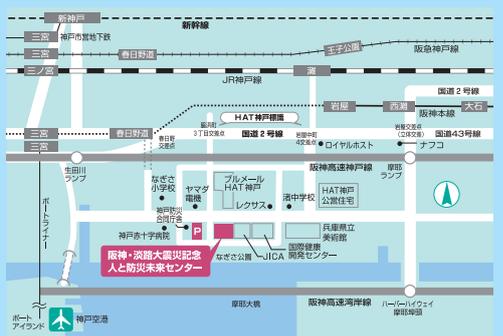
入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

休館日
毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月6日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

- 交通**
- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



新任資料専門員紹介



杉本 弘幸

はじめまして、杉本弘幸です。広島県福山市出身で、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程で学位を取得しました。これまで、いくつかの大学・短大の非常勤講師をしつつ、京都府、滋賀県、大阪府、三重県の自治体史編さん室や資料館・博物館などで働いてきました。

専門は日本近現代史です。これまでは、20世紀前半の都市社会政策、社会福祉史研究を京都市域をフィールドとして行ってきました。以上の研究は著書として刊行し、ひと区切りがついたので、現在は19世紀後半と戦後史を中心にして研究を進めています。

資料室では災害史・地域歴史資料学の最先端の研究成果に学びつつ、利用者の視点に立った収蔵資料の整理・管理やレファレンスなどを行いたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

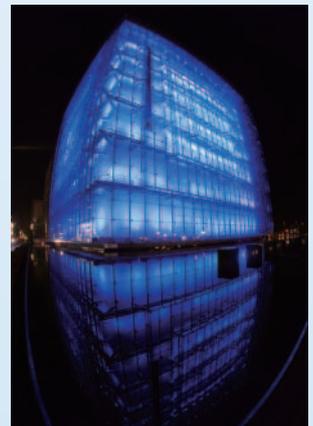
西館 夜間ライトアップ実施中

阪神・淡路大震災から20年。HAT神戸に人と防災未来センターが誕生して10余年。人と防災未来センターは、震災の経験と教訓を発信する施設として、街の人々に支えられながら共に歩んできました。

これからもHAT神戸の街とともに未来へ向けて進んでいきたい—その思いを込めて、人と防災未来センターでは街のシンボルのひとつとなるべく、平成27年3月27日(金)より、毎週金・土曜日に西館壁面の夜間ライトアップを行っています。

初日には、点灯セレモニーを西館北西の特設会場で開催し、たくさんの住民の皆さんにお集まりいただきました。河田センター長のかけ声の下、参加者全員でカウントダウンを行い、点灯とともに歓声が沸き上がる華やかな幕開けとなりました。セレモニー終了後には、東館1階レストランを会場として、災害非常食等の試食会も行いました。

点灯時間は日没時刻を考慮して、月毎に変更されます。5月は18時45分～21時、6月は19時～21時を予定しています。ライトアップ内容も月毎にテーマを変えて行われるので、季節に合わせたライティングをお楽しみいただけます。また、毎週金・土以外にも、減災月間である1月をはじめ、9月1日防災の日などの特別な日にも実施予定です。点灯日・時間等詳細については、当センターHP (<http://www.dri.ne.jp/>)にてご確認ください。



河田センター長挨拶



非常食等試食会

金・土曜日は、開館時間が19時(入館は～18時)までとなっていますので、館内を見学後にライトアップをご覧いただくこともできます。ライトアップ実施以降、多くの方がカメラや携帯電話でライトアップした当センターを撮影している姿が多く見られます。まだご覧になったことのない方は、この機会にぜひ一度ご来場ください。皆さまのお越しをお待ちしています。



Hem21 NEWS
vol.51

平成27年5月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください